日本医史学会会報

44号（復刊）

平成20年10月30日

第110回日本医史学会総会を開催するにあたって…… 会－1
第109回日本医史学会総会及び学術大会参加記…… 会－3
第109回日本医史学会総会報告…… 会－5
平成19年度支部・研究会報告 …… 会－17
雑報・寄贈本リスト …… 会－24

第110回日本医史学会総会を開催するにあたって

会長　前山 隆太郎

この度，嘉永2年（1849）7月の佐賀藩牛痘接種から160周年の2009年6月，日本医史学会総会および学術大会を肥前佐賀で開催することになり，準備委員一同たいへん光栄に存じております．

佐賀藩校の弘道館は天明元年（1781）第8代藩主鍋島治茂により創設され古賀精里を初代教授に迎えています．その長男の古賀穀堂（1777～1836）は文化3年（1806）第9代藩主鍋島斎直に「学制管見」を上呈しました．これは佐賀藩の学制改革草案で，全28ヵ条からなり，第22条には「近来医学大イニ啓ケテソノ学フトコロハ曾テ和蘭陀ノ学問ト云コトニアラス　世界一統ノコトヲキワメシルコトナリ　就中西洋諸国ハ天文地理器物外科等ノコトハ唐土万国ヨリモクワシク諸人ノシル處ニシテ……」と書かれ，第24条には「医者ノ学問ハ段々遊学仰付ケラレ御取立コレアルコトナレドモ御国ニテハ医学館ナト屹タル稽古所ナク……今時医者ノ申シ訳ハ医者ハサジノサキニテ相スムトイフモノアレトモ学問ナクシテ名医ニナルコト覚束ナキ儀ナリ……」と述べています．

鍋島直正公（1815～1871）は天保元年（1830）第10代藩主となり，古賀穀堂が天保2年上呈した全4ヵ条からなる「済急封事」に則り財政再建と藩政改革に着手．天保5年（1834）には上記「学制管見」に則り医学館を八幡小路に創設しました．寮監に任ぜられた島本良順（?～1848）は長崎の猪俣伝次右衛門に蘭学を学び文化年間から佐賀蓮池町で蘭学塾を開いていました．この塾には伊東玄朴（1801～1871），大庭雪斎（1805～1873），金武良哲（1811～1884），福地道林（?～?）などが入門しています．天保10年（1839）には藩校弘道館を北堀端に移転拡張し，全藩士子弟に「文武課業法」という達成水準を定めたきびしい修学を義務化しました．

弘化4年（1847），侍医伊東玄朴の牛痘による天然痘予防の進言を入れ，直正公は牛痘苗の取り

寄せ方を楢林宗建（1802～1852）に命じました．宗建は試行錯誤の末ようやくもたらされた牛痘痂を，嘉永2年（1849）7月我が子健三郎に接種し成功．8月22日，侍医大石良英は佐賀城本丸奥で直正公世嗣子淳一郎君（後の第11代藩主直大）に種痘致しました．この牛痘苗はこの年，大阪，京都，江戸，日本各地に広がり，安政5年（1858）5月7日「神田お玉ヶ池種痘所」開所へと繋がった事はご承知の通りです．

嘉永4年（1851）佐賀藩では医学寮に蘭学寮を併設し，今日の医師免許制度のルーツとされる「医業免札制度」を発足させました．

安政5年（1858）12月26日，医学寮は現在地の水ヶ江に移転され，直正公より「好生館」と命名されました．これは中国の「書経」の一節「好生之徳　洽干民心」に由来しています．佐賀藩医学校好生館ではシーボルト門下の大庭雪斎や大石良英が教導方を勤め，ポンペ門下の島田東洋，永松玄洋，宮田魯斎らが指南役を務めました．文久元年（1861）年には，好生館で再教育を受け医業免札の書き替えを命じています．相良知安（1836～1906）も弘道館から好生館に学び，その後藩命により佐倉順天堂の佐藤尚中に入門．文久3年（1863）には長崎精得館でボードウィンに就き，慶応3年（1867）佐賀に帰り好生館教導方差次，そして直正公の侍医になっています．相良知安は明治2年（1869）福井藩医岩佐純（1836～1912）と共に明治政府の医学取調御用係を命じられ，ドイツ医学導入を進言，また今日の医療制度の基礎を作りました．

明治4年7月の廃藩置県により佐賀藩は佐賀県から9月伊万里県へ，明治5年5月再び佐賀県へ，明治9年4月三潴県へ，8月長崎県となりました．この間好生館には明治5年ヨングハンス，明治6年スローン，明治10年シモンズ，明治12年デーニッツなどの御雇い外国人医師が在席しています．

明治16年5月，佐賀県は長崎県から分離独立し，好生館はこの年10月デーニッツ，池田陽一（東大明治16年卒），川原汎（東大明治16年卒）の3名教授による甲種医学校になりました．

明治18年11月デーニッツのドイツ帰国により好生館は甲種医学校の資格を失い，明治21年には「公立佐賀病院」とまでなっていました．

明治28年武富時敏らによる県立病院復活運動が起こり明治29年（1896）12月11日，現在の「佐賀県立病院好生館」に戻りました．この年は奇しくも1796年のジェンナー牛痘接種とシーボルト生誕から100周年に当たります．

平成8年（1996）年12月14日「佐賀県立病院好生館創立100周年記念式典」が開催され，九州大学総長杉岡洋一先生には「日本の医療を憂う」，作家吉村昭氏には「江戸期から明治期への日本医学」と題するご講演を賜りました．

以上，幕末から明治期佐賀の医学教育の変遷を簡単に述べさせて頂くことでご挨拶に代えさせて頂きます．なお，「種痘の図」や酒井シヅ先生が昭和51年発見された「医業免札姓名簿」，好生館で幕末から明治期使用された和書や欧文図書などは「佐賀城本丸歴史館」に現在は寄託保存されています．

第109回日本医史学会総会及び学術大会参加記

青木　歳幸

佐賀大学地域学歴史文化研究センター

来年110回佐賀大会を準備するという理由からか，参加記執筆を依頼された．今大会は，佐倉市市民音楽ホールで，6月21日（土），22日（日）の二日間の日程だった．全国各地からの参加者を得て，雨天にもかかわらず，熱心な討議がかわされ，有意義だった．

大会は，名誉会長蕨和雄佐倉市長，会長大沢眞澄，副会長佐藤強，顧問真鍋溥，実行委員長木村正久，実行委員高崎正志・坂井建雄・澤井直・月澤美代子・樋口誠太郎・渡部幹夫各氏によって運営された．共催は，日本医史学会・佐倉市・佐倉市教育委員会・順天堂大学・国立歴史民俗博物館の5団体との発表だった．

会場の佐倉市市民音楽ホールは，京成線うすい駅から徒歩5分のところにあり，大会会場としては500名ほど収容できるホールであり，22日午後の市民公開講演は，満席に近い盛況だった．

口演は，第一会場を主に聴講した．第1席の松木明知氏の報告は，山形県酒田市沖飛島の庄屋鈴木家文書の「治験法談」に，青洲門人で笠間藩の結解庸徳が，文政13年（1830）に木下直吉なる者の麻酔手術を実施した記録を見いだした報告であった．華岡流麻酔術は普及しなかったのではなく，事例が知られていないという報告者の主張に賛意と敬意を表する．筆者も，佐賀においては，文政7年（1824）に，肥前蓮池藩出身の華岡青洲門人井上友庵が，地域文人の草場佩川のいとこに麻沸湯を使って医瘤切除手術に成功したことを見いだした．詳細は，次回佐賀大会で報告したい．

2席の渡部幹夫氏は，サンフランシスコUCSF校医学図書館蔵医学資料にある橋本宗吉の西洋医事集成宝鑑にみえるエレキテル研究が先駆的仕事であると評価した．第3席の田中祐尾氏は，同家蔵「紅夷外科宗傳」4冊本が瘍科，金瘡（外傷），膏薬，油薬の4部に別れており，併せて「金瘡跌撲療治之事」や「外科訓蒙圖彙」等の図について，外科書と通詞との間にオランダ医師らの介在を指摘した．絵の蒸留器は，西洋の本からとったものでなく，商館長がスケッチし，通詞の楢林鎮山が写したものというミヒェル・ヴォルフガング氏のコメントも田中氏の主張を補強した．なお，楢林鎮山家では「紅夷外科宗傳」を代々伝え，佐賀市の佐賀城本丸歴史館にも楢林栄哲高茂が天明3年（1783）に門人に与えた本書の写し「西洋医術図巻」が現存する．

以下，拝聴できたものを中心に，抄録号からの紹介もあわせ，報告する．短時間での聴講で，理解不足や誤読もあるやもしれないが，ご寛恕の程をお願いしたい．第4席の松尾信一氏は，菊池東水著『解馬新書』の巻之二の騨編につき，去勢された牛についての解説．第5席の鈴木紀子氏は明治7年の『三角繃帯用法』にみる三角巾等につき考察した．第6席の月澤美代子氏は，輸入された外科器具の使用例と，我が国工人による創意工夫紹介．我が国医療技術の受容過程に関する重要な指摘があった．第8席の高安伸子氏は，泰然が信（後の林董）や孫の百太郎らに，英語，フランス語を学ばせようとしていたことを紹介した．時代が蘭学から英学等へ移りつつあった．

第13席の島田和幸氏は明治8年から10年にかけて多く発行された小学校解剖教科書を紹介し，第14席の西井易穂氏は長与専斎が衛生学的見地から二見海水浴場の開設を提言したことを紹介．第26席の青木道夫氏は幕末の利根川流域の眼科医高野敬仲の秘伝のめぐすり「家傳開明散」，「家傳青眼膏」を紹介．高野敬仲はさらに考究される

べき医師と思う．

第28席の片岡勝子氏は，明和8（1771）の観臓による婦人臓図のうち，岩国市芦山家に伝わる婦人臓図を紹介．第38席の小林晶氏は，ニコラ・アンドリの「オルトペディ」について，美しい肉体への関心と教育を紹介した．第39席の澤井直氏は，16世紀前半の解剖用語について，ヴェリサリウス以前に，アラビア語由来の解剖用語からの脱却が図られているとした．

第47席の岩崎一氏らは，フーフェランドの医戒から引用した「克己殉公」の「他の為に生くることこれ固より医道の本質なり」が済世学舎講師となった小此木信六郎の実践した信念だったとした．第52席の鈴木達彦氏は南宋五巻本『和剤局方』では，宮内庁本と医学館本が別本であると報告．第53席の猪飼祥夫氏は，龍谷大学蔵大谷文書第5467号の文書が新発見の『本草集注』であると報告．第54席の真柳誠氏は，『宋版傷寒論』系諸版の検討で，「翻刻宋版」を冠する『傷寒論』は，明末清初のC版に由来するとした．第55席の西巻明彦氏は，『戴曼公唇舌図訣』が明代の舌診の概念で書かれていると推定した．立体的舌図についても解説した．

講演は，第1日目に会長講演，第2日に理事長講演があった．大沢眞澄会長講演は，「江戸時代，鉱物に関する諸問題」と題して，江戸時代の鉱物は薬物として蒐集され，幕府医官の田村藍水の鉱物知識，藍水門下の平賀源内のアスベスト，シーボルトコレクションと助手ビュルガーの働きの再評価等，長年のご研究の要諦を話された．

酒井シヅ理事長の「佐倉と順天堂の人びと」市民公開講演は，藩主堀田正睦の改革，佐倉の蘭学の系譜，，天保14年佐藤泰然の江戸から佐倉への移住，泰然一門とその門流，とくに山口舜海（のちの佐藤尚中）の活動，佐倉順天堂での外科手術，佐倉藩の医制改革等，学術的内容をわかりやすく講演され，約350名の聴衆を魅了した．

国立歴史民俗博物館でのミニ企画展「近代医学の発祥地，佐倉順天堂」では，順天堂の外科道具や外科書，療治定め，天保14年の解剖記録等が出されており，順天堂が黎明期の近代日本医学に大きな役割を果たしたことを展示し，順天堂史跡見学とともに好評であった．

口演，講演，懇親会，共催展示等，充実した大会であった．役員，実行委員会各位の多大な苦労の賜と改めて深甚の謝意を表したい．大いに学びつつ，来年度大会をよりよいものにするため，準備をすすめている．「東の長崎」の佐倉から，我が国種痘発祥の地であり，魅力的な医学資料の豊富な佐賀へ，多くの会員の皆様にお出でいただきたいものである．

第109回日本医史学会総会

去る平成20年6月20日に理事・評議員会，21日には総会が佐倉市民音楽ホールで開催されました．下記の報告が承認され，協議事項は可決されました．第7号議案については今年12月に予定されている法人制度改定をもとに，理事・評議員会において引き続き審議を行うことになりました．

1. 報告事項（平成20年3月31日現在）

(1) 平成19年度庶務報告

1. 会員の動静

入会者　57名

退会者　60名

死亡会員　9名　武藤琦一郎（2007年5月19日）　八木素萌（2007年6月28日）
津田進三（2007年8月23日）　森　富（2007年8月31日）
二宮陸雄（2007年11月6日）　森　裕徳（2007年12月13日）
萩原克美（2008年1月27日）　中野　進（2008年2月9日）
鈴木五郎（2008年3月15日）

都合退会者　51名

現在会員数　883名　正会員　871名（うち学生会員　34名，海外会員　30名）
名誉会員　9名
賛助会員　4名

2. 受　賞

平成19年6月27日　第21回間中賞　浦山きか

(2) 平成19年度事業報告

1. 日本医史学雑誌　第53巻第2・3・4号，第54巻第1号　発行
2. 第108回日本医史学会総会　平成19年4月7日（土）～8日（日）
   会長　田中　祐尾　於・大阪市立大学医学部
   第109回日本医史学会総会　平成20年6月21日（土）～22日（日）
   会長　大沢　眞澄　於・佐倉市民音楽ホール
   第110回日本医史学会総会　平成21年6月6日（土）～7日（日）
   会長　前山隆太郎　於・佐賀市文化会館
3. 平成19年度日本医史学会秋期大会　於・長崎大学医学部ポンペ会館
   会長　相川　忠臣　平成19年11月11日（日）
4. 日本医史学会例会　8回開催（9月は神奈川地方会と合同開催・12月は日本薬史学会，日本獣医史学会，日本歯科医史学会，日本看護歴史学会と5学会合同開催）

(3) 平成19年度共催・協賛事業報告

1. 西洋医学教育発祥150年記念国際医学史科学史会議【共催】 於・長崎大学医学部記念講堂
   平成19年11月9日（金）～10日（土）

2. 曲直瀬道三生誕五百年祭【共催】 於・臨済宗大徳寺派　祥雲寺
平成 19 年 12 月 22 日（土）
3. 第 5 回アショフ・シンポジウム【協賛】 於・リル・ドリーム中津
平成 19 年 7 月 27 日（金）～29 日（日）
4. 神農祭【協賛】 於・湯島聖堂　平成 19 年 11 月 23 日（金）
5. 大槻玄沢生誕 250 周年・没後 180 周年記念事業【後援】 於・一関文化センター
平成 19 年 9 月 24 日（月）
6. 第 15 回医療文化史サロン展【後援】 於・護王会館
平成 19 年 11 月 1 日（木 ）～3 日（土）

(4) 第 20 回矢数医史学賞選考委員会報告

寺澤捷年訳注『完訳　方伎雑誌・解説』たにぐち書店（2007 年 11 月 27 日刊行）

(5) 第 14 回学術奨励賞選考委員会報告

松本秀士著「清末刊行の中国文人体解剖学書について」（日本医史学雑誌第 53 巻第 4 号掲載）

(6) 日本医史学会支部・研究会報告（資料 A）

(7) その他

2. 協 議 事 項

第 1 号議案　平成 18 年度決算報告に関する件（資料 1–3）

第 2 号議案　平成 19 年度決算報告に関する件（資料 4–6）

第 3 号議案　平成 20 年度事業計画案に関する件

1. 日本医史学会 12 月例会・懇親会（日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・日本看護歴史学会と 5 学会合同開催）【共催】 於・順天堂大学　平成 20 年 12 月 13 日（土）
2. 神農祭【協賛】 於・湯島聖堂　平成 20 年 11 月 23 日（日）
3. 第 16 回医療文化史サロン展【後援】 於・護王会館　平成 20 年 11 月 1 日（土）～3 日（月）
4. 小野蘭山没後 200 年記念事業　平成 22 年

第 4 号議案　平成 20 年度予算案に関する件（資料 7）

第 5 号議案　日本医史学会役員改選に関する件（資料 8）

第 6 号議案　『日本医史学雑誌』編集に関する件（資料 9）

第 7 号議案　NPO 設立に関する件

3. そ　の　他

資料1

平成１８年度　収 支 決 算 書

自　　平成18年4月 1日
至　　平成19年3月31日

（収　入　の　部）

科　　目	予　　算	決　　算	増　　減	備　　考
1. 会 費 収 入	8,500,000	7,360,250	△1,139,750	
2. 入　会　金	100,000	70,000	△30,000	
3. 雑 誌 売 上	100,000	217,500	117,500	ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ
4. 著 者 負 担	100,000	273,500	173,500	
5. 広 告 収 入	200,000	175,200	△ 24,800	
6. 名　簿　代	0	0	0	
7. 集　会　費	30,000	36,600	6,600	
8. 助　成　金	1,700,000	1,700,000	0	
9. 寄　付　金	0	650,000	650,000	
10. 利　　息	0	231	231	
11. 雑　収　入	50,000	21,560	△28,440	印税他
小　　計	10,780,000	10,504,841	△　275,159	
前年度繰越金	1,217,759	1,217,759	0	
合　　計	11,997,759	11,722,600	△　275,159	

資料2

平成１８年度　収 支 決 算 書

自　平成18年4月 1日
至　平成19年3月31日

（支　出　の　部）

科　　目	予　　算	決　　算	増　　減	備　　考
1. 学会誌等刊行費	4,500,000	3,501,985	△998,015	
2. 名簿刊行費	0	0	0	
3. 事　業　費	2,000,000	1,205,159	△794,841	
（総　　会）		(884,026)		
（例　　会）		(198,850)		
（矢数医史学賞）		(11,040)		
（学術奨励賞）		(111,243)		
4. 事　務　費	700,000	218,949	△481,051	
5. 印　刷　費	80,000	162,200	82,200	
6. 備　品　費	100,000	0	△100,000	
7. 通　信　費	300,000	235,113	△64,887	
8. 人　件　費	1,600,000	1,587,250	△12,750	
9. 交　通　費	850,000	991,460	141,460	
10. 渉　外　費	100,000	30,500	△69,500	
11. 会　議　費	100,000	101,561	1,561	
12. 雑　　費	10,000	28,665	18,665	
13. 予　備　費	1,657,759	0	△1,657,759	
小　　計	11,997,759	8,062,842	△3,934,917	
次年度繰越金	0	3,659,758	3,659,758	
合　　計	11,997,759	11,722,600	△275,159	

資料3

資　産（平成19年3月31日現在）

1．一般会計　3,659,758（現金 255,418　預金 3,404,340）
2．特別会計　7,050,074
3．矢数医史学賞基金　5,418,070
4．斉藤脩基金（日本医史学会学術奨励賞基金）
　　1,500,000
計　17,627,902

内　訳

特別会計

支　出		収　入	
次年度への繰越金	7,050,074	前年度より繰越金	6,980,277
		利息	69,797
合　計	7,050,074	合　計	7,050,074

矢数医史学賞

支　出		収　入	
次年度への繰越金	5,418,070	前年度より繰越金	5,544,275
矢数賞賞金	150,000	利　金	23,795
合　計	5,568,070	合　計	5,568,070

会則第18条第3項の規定に従い、平成18年度の財産の状況及び理事の業務執行の状況を監査した結果、収支計算書その他の書類は正確かつ妥当であることを認め、理事の業務執行に不整の点はないと認めます。

平成20年5月31日

監　事　石原　[illegible]

監　事　高橋　[illegible]

資料4

平成１９年度　収 支 決 算 書

自　　平成19年4月 1日
至　　平成20年3月31日

（収　入　の　部）

科　　目	予　　算	決　　算	増　　減	備　　考
1. 会 費 収 入	8,500,000	6,833,250	△1,666,750	
2. 入　会　金	100,000	92,000	△8,000	
3. 雑 誌 売 上	100,000	145,000	45,000	ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ
4. 著 者 負 担	200,000	286,500	86,500	
5. 広 告 収 入	200,000	125,100	△ 74,900	
6. 名　簿　代	0	0	0	
7. 集　会　費	30,000	46,200	16,200	
8. 助　成　金	1,400,000	1,400,000	0	
9. 寄　付　金	0	100,000	100,000	
10. 利　　息	0	2,161	2,161	
11. 雑　収　入	50,000	28,340	△21,660	印税他
小　　計	10,580,000	9,058,551	△1,521,449	
前年度繰越金	3,536,835	3,659,758	122,923	
合　　計	14,116,835	12,718,309	△1,398,526	

資料5

平成１９年度　収支決算書

自　平成19年4月 1日
至　平成20年3月31日

（支　出　の　部）

科　目	予　算	決　算	増　減	備　考
1. 学会誌等刊行費	4,700,000	3,418,459	△1,281,541	
2. 名簿刊行費	0	0	0	
3. 事業費	3,100,000	1,223,334	△1,876,666	
（総会）		(856,414)		
（例会）		(151,450)		
（矢数医史学賞）		(0)		賞金は特別会計より支出
（学術奨励賞）		(100,000)		
（長崎大会）		(115,470)		
4. 事務費	700,000	120,764	△579,236	
5. 印刷費	80,000	222,600	142,600	
6. 備品費		0	0	
7. 通信費	300,000	198,605	△101,395	
8. 人件費	2,000,000	1,637,600	△362,400	
9. 交通費	1,200,000	229,840	△970,160	
10. 渉外費	100,000	30,000	△70,000	
11. 会議費	100,000	7,000	△93,000	
12. 雑費	10,000	5,715	△4,285	
13. 予備費	1,826,835	0	△1,826,835	
小計	14,116,835	7,093,917	△7,022,918	
次年度繰越金	0	5,624,392	5,624,392	
合計	14,116,835	12,718,309	△1,398,526	

資料6

資　産（平成20年3月31日現在）

1．一般会計　5,624,392（現金 55,661　預金 5,568,731）
2．特別会計　7,057,097
3．矢数医史学賞基金　5,292,153
4．斉藤脩基金（日本医史学会学術奨励賞基金）
　　1,500,000
計　19,473,642

内　訳

特別会計

支　出		収　入	
次年度への繰越金	7,057,097	前年度より繰越金	7,050,074
		利息	7,023
合　計	7,057,097	合　計	7,057,097

矢数医史学賞

支　出		収　入	
次年度への繰越金	5,292,153	前年度より繰越金	5,418,070
矢数賞賞金	150,000	利　金	24,083
合　計	5,442,153	合　計	5,442,153

会則第18条第3項の規定に従い、平成19年度の財産の状況及び理事の業務執行の状況を監査した結果、収支計算書その他の書類は正確かつ妥当であることを認め、理事の業務執行に不整の点はないと認めます。

平成20年5月31日

監　事　石原　力

監　事　高橋　文

資料7

平成20年度予算表

自平成 ２０年４月１日－至平成２１年３月３１日

支出の部	前年度（平19）予算	本年度（平20）予算	前年度との比較	備考	収入の部	前年度（平19）予算	本年度（平20）予算	前年度との比較	備考
1. 学会誌等刊行費	4,700,000	4,500,000	△200,000		1. 会費収入	8,500,000	8,300,000	△200,000	
2. 名簿刊行費	0	700,000	700,000		2. 入会金	100,000	100,000	0	50名
3. 事業費	3,100,000	2,000,000	△1,100,000		3. 雑誌売上	100,000	100,000	0	
4. 事務費	700,000	700,000	0		4. 著者負担	200,000	100,000	△100,000	
5. 印刷費	80,000	120,000	40,000		5. 広告収入	200,000	200,000	0	
6. 備品費	0	0	0		6. 集会費	30,000	30,000	0	
7. 通信費	300,000	300,000	0		7. 助成金	1,400,000	1,400,000	0	学術振興会出版助成金
8. 人件費	2,000,000	2,000,000	0	事務、編集	8. 寄付金	0		0	
9. 交通費	1,200,000	850,000	△350,000		9. 利息	0	2,000	2,000	
10. 渉外費	100,000	100,000	0		10. 雑収入	50,000	50,000	0	登録.委託
11. 会議費	100,000	100,000	0		11. 前年度繰越金	3,536,835	5,624392	2,087,557	
12. 雑費	10,000	10,000	0						
13. 予備費	1,826,835	4,526,392	2,699,557						
合計	14,116,835	15,906,392	1,789,557		合計	14,116,835	15,906,392	1,789,557	

資料 8

日本医史学会役員一覧（50 音順・敬称略，○印は新任）

理 事 長　酒井シヅ

常任理事　奥沢康正，小曽戸　洋，○坂井建雄，○ヴォルフガング・ミヒェル

監　　事　石原　力，高橋　文

理　　事　遠藤正治，川嶌眞人，蔵方宏昌，新村　拓，杉田暉道，田中祐尾，戸出一郎
中西淳朗，中橋彌光，○西巻明彦，○深瀬泰旦，○正橋剛二，松木明知
松下正明，真柳　誠，吉田　忠

評 議 員　相川忠臣，会田　恵，青木國雄，○青木歳幸，青木允夫，赤祖父一知
荒井保男，岩崎鐵志，遠藤次郎，大島智夫，岡田靖雄，小形利彦
奥村　武，小田晧二，片岡勝子，片桐一男，加藤四郎，唐沢信安
北小路博央，○小林　晶，○佐藤　裕，○澤井　直，渋谷　鉱，島田保久
白崎昭一郎，鈴木晃仁，○園田真也，高橋　昭，瀧澤利行，立川昭二
○舘野正美，多留淳文，○寺澤捷年，友吉唯夫，中村定敏，中山　沃
○花輪壽彦，原　敬二郎，原田康夫，樋口誠太郎，昼田源四郎，藤倉一郎
町　泉寿郎，松尾信一，室賀昭三，○柳澤波香，山内一信，○山田和夫
山田光胤，○山之内夘一

幹　　事　蔵方宏昌，○澤井　直，真柳　誠

名誉会員　大滝紀雄，大塚恭男，○蒲原　宏，酒井　恒，高島文一，土屋重朗
長門谷洋治，森　　納，山本俊一

編集委員　編集長　坂井建雄
委　員　蔵方宏昌，澤井　直，鈴木晃仁，瀧澤利行，中西淳朗，西巻明彦
町　泉寿郎

資料9

投稿規定（平成20年6月21日改訂）

1　本誌に掲載する論文は医史学研究に貢献しうるもので他誌に未発表のものとし，生命倫理および個人情報保護に配慮されたものとする．掲載された論文等の著作権は本学会ならびに著者に帰属するものとする．

2　投稿者の資格は共著者も含めて本学会会員とする．ただし編集委員会が特に認めたものはこの限りではない．

3　原稿の区分は，原著・総説・研究ノート・広場・資料紹介・消息等とし，投稿にあたって著者は原稿の区分を指定できるが，最終的な採否および区分は編集委員会が決定する．原稿の長さは400字詰め原稿用紙に換算して，原著および総説は60枚程度，研究ノートは30枚程度，広場は15枚程度を原則とする．原著・総説・研究ノートについては編集委員会が審査者に審査を依嘱して採否を決定する．編集委員会はすべての原稿に関し修正を求めることがある．

4　執筆要項

a　原稿は横書き原稿用紙を使用のこと．ワープロの使用も可．

b　原著・総説・研究ノート・広場・資料の場合は，欧文表題・ローマ字著者名を原稿の末尾に記すこと．さらに原著および研究ノートにおいては欧文要旨（250語以内）と和文要旨（欧文要旨の対訳，およそ300字）を添え，その末尾に表題および要旨から選択した和文のキーワード（5語以内）を記すこと．

c　欧文題名・欧文抄録での日本人名の表記については，5　外国語原稿のe項に準ずるものとする．

d　原稿の冒頭にタイトル，著者名，著者の帰属等を記載すること．

e　表記は原則として常用漢字・人名漢字以内で，新かなづかいを使用する．難字は欄外にも楷書で別記する．

f　外国人の人名・地名は，よく知られたもののほかは初出の箇所に原綴またはローマ字を添えることが望ましい．

g　図・表は明瞭に書き，写真は原則として白黒の紙焼きとする．裏には著者名・番号・天地を明記し，挿入位置を原稿中に明示すること．

h　注・参考文献は末尾にまとめ，本文初出順に算用数字の通し番号（1），（2）…をつけて，照合の便宜をはかること．

i　参考文献の引用の仕方は，（1）雑誌の場合は，著者名・論文題目・雑誌名・年次・巻・号・頁の順に書く．（2）単行本の場合は，著者名・書名・発行地・発行所名・年次・該当頁を記載する．（3）編著書の場合は，著者名・論文題目・著者名（編者名）・発行地・発行所名・年次・該当頁とする．（4）古文献の場合，江戸時代以前の国書については，原則として，編著者名・書名・成立年・刊行年（もしくは抄写年）・発行地・発行者名など，必要ならば該当丁（葉）あるいは頁数もしくは項目名を記し，稀覯本については所蔵者名も明記すること．清代以前の漢籍（和刻本・日本写本も含む）についても，前記に準ずる．（5）縦書きの場合は，旧投稿規定（平成18年5月13日改訂）にしたがうこととする．

（例）

【雑　誌】宗田一．司馬江漢の西遊をめぐって．日本医史学雑誌 1984; 30（4）: 425–431

【単行本】富士川遊．日本医学史．東京：形成社；1972. p. 54

【編著書】大塚恭男．中国医学の伝統．村上陽一郎編．医学思想と人間（知の革命史6）．東京：朝倉書店；1979. p. 63–94

5　外国語原稿

a　外国語原稿は，原則として英語・独語・仏語いずれかとする．原稿の長さは8000語程

度を原則とする．

b　外国語の原稿は原則として，1行約65字，1頁に25行，ダブルスペース（1行おき）で印字する．

c　イタリック・ゴシック・ギリシャ文字等はかならず朱筆で指定する．

d　日本語・中国語を欧文表記する時は，初出の箇所に漢字を付記する．

e　日本人名を欧文表記する際には原則として名を先に，姓を後とする．ただしそれが不自然なばあいはケース・バイ・ケースで扱って差し支えない．

f　中国語の欧文表記は，現代中国語音のローマ字綴り（ピンイン式）とする．引用文献がウェード式の場合は，この限りではない．

g　注・文献・図表については，和文原稿の規定に準ずる．

h　題名中に書名が出現する場合は，イタリック体を使用しない．

（例）

【雑　誌】Nutton V. Galen in the eyes of his contemporaries. Bull Hist Med. 1984; 58: 315–324

【単行本】Temkin O. The falling sickness: a history of epilepsy from the Greeks to the beginnings in modern neurology. 2nd ed. Baltimore: Johns Hopkins University Press; 1971. p. 25–40

【編著書】McC Brooks Ch, Levey HA. Humorally transported integraters of body function and the development of endocrinology. In: McC Brooks Ch, Cranefield PF, editors. The historical development of physiological thought. New York: Hafner; 1959. p. 183–238

6　投稿原稿は，コピーを1部添付すること．ワープロで執筆の場合はプリントアウト2部のほかに，電子データ（CD-R，フロッピーディスク等）を添付すること．原稿は著者校正の際も原則として返却しないので，手元にコピーを一部残すこと．

7　著者校正は，原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし，初校のみとする．校正は印刷上の誤植を訂正するに留め，原稿の改変や，その他の組み替えは認めない．校正刷りの返送期日を厳守すること．期日までに返却されない場合は責了とみなす．

8　刷り上がり10印刷ページまでは原則として無料とし，超過分と図表製版の実費は著者負担とする．

9　論文別刷りは50部単位とし，実費で作製する．別刷希望者は校正同封の申込書に部数を明記すること．

10　原稿の送り先

〒113-8421　東京都文京区本郷2丁目1-1
順天堂大学医学部医史学研究室内
日本医史学雑誌編集委員会

（資料A）

平成19年度支部・研究会報告

平成19年度北海道医史学研究会　報告

○北海道医史学研究会幹事会・総会　　平成19年9月15日・北海道医師会館

議題及び承認事項

1. 役員について
　　会長に長瀬清先生を選任
2. 平成18年度決算について
3. 北辰第8号の発行について
　　合同学術集会の特集を組むことに決定
4. 合同学術集会について
　　第3回合同集会を20年秋に開催することに決定

○合同学術集会　　平成19年9月15日・札幌市教育文化会館

北海道医史学研究会・日本薬史学会北海道支部第2回合同学術集会プログラム

開会挨拶

日本薬史学会北海道支部支部長　　斎藤元護

北海道医史学研究会会長　　長瀬　清

特別講演　　座長　斎藤元護（日本薬史学会北海道支部長）

「寛政11年の蝦夷地採薬使と蝦夷草木腊葉帖」

講師　秋月俊幸（元北海道大学図書館，北海道大学法学部講師）

◎一般講演1　　座長　関川　彬（北海道医療大学教授）

（1）ホシ伊藤の創業者伊藤経作の生涯（Ⅱ）―星の組織とその事業―

本間克明（（株）北海道医薬総合研究所）

（2）北海道薬科大学創設胎動期の新事実（続き）　新たな発掘資料

吉沢逸雄（日本薬史学会，北海道医史学研究会）

（3）アルギン酸の発見英国特許No. 142　　西澤　信（東京農業大学）

◎一般講演2　　座長　長瀬　清（北海道医史学研究会会長）

（1）関場不二彦著「西医学東漸史話」について（第五報）―「外科」という呼称の由来について―

○秦　温信・松岡伸一・大西勝憲・関谷千尋・佐野文男（札幌社会保険総合病院）・

島田保久（元町整形外科）・鮫島夏樹（旭川医科大学）

（2）農業機械災害撲滅の執念―伊藤紀克の終わりなき闘い―

古屋　統（NPO法人北海道安全衛生研究所）

（3）蝦夷地の医療（1）　　島田保久（元町整形外科）

閉会挨拶　　北海道医史学研究会代表幹事　島田保久

○「北辰」第8号

平成19年12月1日発行

〒060–0042 札幌市中央区大通西6丁目　北海道医師会内

北海道医史学研究会（島田保久）

平成 19 年度新潟支部　報告

今年度は支部としての例会，研究発表会は行われなかった．支部事務局の所在は従来どおり，日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館（〒951–8580 新潟市中央区浜浦町 1–8　電話 025–267–1500）内である．

平成 19 年度（2007 年）中の支部会員の学会発表などは次の通り．

①新潟郷土文化鑑賞会（2007 年 2 月 18 日　ウエルシティー新潟）
（特別講演）新潟に西洋医学を紹介した外国人医師のルーツを追っての五十年　蒲原　宏
②新潟大学整形外科開講 90 年記念式典兼新潟整形外科集談会（2007 年 11 月 10 日　新潟市イタリア軒）
（特別講演）新潟の整形外科 90 年略史　蒲原　宏
③第 108 回日本医史学会総会発表
（一般講演）グラム医師の研究の成果について　会田　恵
口内炎の病因に関する変遷　西巻明彦
日本の口中科免許第一号　佐治職（さじ・つかさ）　樋口輝雄
④第 35 回日本歯科医史学会総会発表
（特別講演）わが国の歯科医育機関の興亡　中原　泉
（一般講演）中国伝統医学における口瘡の概念の変遷　西巻明彦
「啓迪集」牙歯門と「口歯類要」の比較検討　西巻明彦
「中国医学大辞典」（謝観著）にみられる歯科的事項　西巻明彦
蕪村の貧居八詠と歯の関係　西巻明彦
歯の発句に関する芭蕉と蕪村の近代性　西巻明彦
医療と景化　西巻明彦
院政と病草紙　西巻明彦
明治天皇の主治歯科医に小幡英之助を推挙した福澤諭吉の書状　樋口輝雄
渡邉良斎の口中医仮免状願
―東京都公文書館所蔵「明治 18 年医師仮免状種痘免状願」より―　樋口輝雄
⑤会員の著作
イギリスの整形外科　19 世紀末から 20 世紀中後期まで　蒲原　宏
『整形看護』12 巻 1 号～12 号（2007 年 1 月～12 月）に連載

その他，医の博物館の収蔵品が地元紙『新潟日報』のコラム欄に 9 月から 2 カ月間，40 回にわたり紹介された．

〒951–8580 新潟市中央区浜浦町 1–8　日本歯科大学新潟生命歯学部　医の博物館内
電話 025–267–1500　FAX 025–267–1134
日本医史学会新潟支部（蒲原　宏）

平成 19 年度北陸支部（北陸医史学会）　報告

当支部は平成 19 年 7 月 8 日，金沢大学医学部記念館において第 29 回例会及び総会を開催した．（参加者 25 名）

（一）例会において発表された研究発表の演題名は下記の通りであった．

1. 田中信吾記『東遊日記』　赤祖父一知，今井美和，堀井美里
2. 高岡町に残る江戸後期の医家書簡について（総括）　正橋剛二

3. 石森国臣先生の履歴と功業　寺畑喜朔
4. スロイスの「動物学講義」と D. Lubarsch“Erste Grondbeginselen der Dierkunde（1870）”について　板垣英治
5. 栄花物語の中の医学　白崎昭一郎
6. 十全同窓会出版「金沢市近代医学史跡図」の説明　佐藤　保，赤祖父一知

なお，当初上記の他にもう1題予定されていたが，当日になってやむを得ない事情により演者から演題が取り下げられた.

（二）支部総会について

前年度事業報告

前年度決算報告および新年度予算案

上記のそれぞれについて説明の上承認また決定された．なお新年度活動方針として次のようなことが討議され決定をみた.

（1）事務所の移転―これはやむを得ない事情なので当分は会長宅におく.
（2）会の名称の変更―諸般の事情から従来の「北陸医史学同好会」を「北陸医史学会」に改める.
（3）年会費の変更―年会費は払いやすさも重要な要素であるので19年度分から従来の年額7,000円を5,000円に変更する.
（4）会誌投稿執筆者負担金の新設―所定頁数以上の原稿には超過分1頁につき2,000円の負担をお願いする．但し当分は6頁までは無料とする.
（5）会誌を会員交流の場とし，編集方針は会誌が陳腐化あるいはマンネリ化しない方向で工夫し，努力する.
（6）会員増強策
　①コメディカルの領域の人たちにも入会を働きかけ，研究発表の場を提供する.
　②従来の北陸3県をエリアとする考え方を北陸以外の地域にも拡張して会員を勧誘する.
（7）安定的な誌上広告主を募集する.
（8）その外，会の運営につき建設的な意見を常時歓迎する.

上記のような軌道修正により今後会の運営にあたることとした.

〒930–0137 富山市呉羽町2575　正橋剛二方
TEL: 076–436–0572　FAX: 076–436–2367
北陸医史学会（正橋剛二）

平成19年度神奈川地方会　報告

活動報告

大会

▽平成19年度総会並びに第30回学術大会（平成19年3月10日）
於・神奈川県救急医療中央情報センター

〔一般演題〕

1. けがれの歴史的考察と臓器移植　杉田暉道
2. 明治期神奈川県における産婆の管理―産婆規則成立まで―　小川景子

〔特別講演〕

ペスト菌処女地に上陸，そしてその後―日米の比較―　滝上　正

▽日本医史学会および日本医史学会神奈川地方会との合同例会

平成 19 年 9 月 29 日　於・鶴見大学歯学部 3 号館

〔一般演題〕

1. 忍性の社会的医療活動　杉田暉道
2. 明治期の精神科看護の姿勢―4 冊の看護書から―　澤田恵子

〒 231–0021 横浜市中区日本大通 58　日本大通ビル　神奈川県予防医学協会内
日本医史学会神奈川地方会（杉田暉道）

平成 19 年度東海支部　報告

活動報告

1. 下記講演会の後援活動を行った.

伊藤圭介日記（第十三集）出版記念会　平成 19 年 11 月 18 日午後 1 時～4 時
（於・名古屋市東山植物園）

【記念講演】「伊藤圭介翁の遺品保存に関する体験」　伊藤　昭
「国立国会図書館所蔵『書籍其他雑具覚帳』」　膝舘寿巳恵
「虫譜を中心に見た尾張本草学」　島岡　眞
「日本の植物園で最初に出版された植物目録をめぐって」　坂崎信之
「伊藤圭介と博覧会鉱物標本」　杉村啓治

2. その他

事務局を下記に移動した.

〒 470–1192 豊明市沓掛町田楽ケ窪 1-98
藤田保健衛生大学医療科学部医療経営情報学科内
山内一信気付　日本医史学会東海支部（山内一信・高橋　昭）

平成 19 度関西支部　活動報告

活動報告

▽第 108 回日本医史学会総会学術集会は大阪市立大学医学部学舎および関連施設において平成 19 年 4 月 6 日（理事会，前夜祭）・7・8 日（総会，学術集会，展示など）の 3 日間開催され，関西支部が事務局を設置して大会を運営した．関西支部春季例会はこれに融合された．大学当局の積極的支援と関西支部会員の中核的参加そして家族ぐるみの奉仕活動がなされ，また他大学からの技術や労力の応援などで総合的に底辺が支えられて，盛況かつ好評のうちに終了した.

名誉会長―長門谷洋治，会長―田中祐尾，役員―寺畑喜朔，中山　沃，中橋彌光，実行委員長―奥澤康正，委員―北小路博央，八木聖弥，猪飼祥夫，園田真也ほか．後援大阪府医師会，八尾市医師会，大阪市立大学医学部，同学同窓会，同学腫瘍外科桜濤会など．一般口演 73 題，紙上発表 4 題，特別講演 3，シンポジウム 1，特別展示 3，共催展示（他場）4 などであった．詳細は日本醫史學雑誌第 108 回大会抄録号，同関西支部機関誌『醫譚』85 号，86 号（共に大会記念号）をお読みください.

▽日本医史学会関西支部2007年秋季大会（京都医学史研究会及びビューティサイエンス学会と3学会共催）　平成19年11月4日（日）　於・京大会館

一般演題

1.「円山応挙の死因」　杉浦守邦（大津市）
2. 病院医療の歴史的始原補遺　亥口勝彦（大和郡山市）
3.「ベルツ博士の関西歴訪」　山上勝久（泉南市）
4.「大矢全節と大矢文庫」　飯塚修三（西宮市）
5. 改訂版「原老柳の没前後の動向について」　古西義麿（堺市）
6.「蘭学医緒方洪庵と周辺の人々」　小田晧二（井原市）
7.「田中彌性園収蔵明国渡来医書五部について」　田中祐尾（八尾市）
8.「緒方惟準伝」執筆の基礎資料について　中山　沃（西宮市）
9.「下田歌子と看護学の接点」　上坂良子（秦野市）
10.「近年収集した医学絵葉書」―(1) 医育機関関係―　寺畑喜朔（高岡市）
11.「医師の呼称より医史を見る」　奥澤康正（京都市）
12.「河口良庵による外科免許状（田中彌性園収蔵）とその背景について」　W・ミヒェル（九州大学）
13.「英国医史「プロフェッション」」　栗本宗治（大阪医大）

東西シンポジストによるミニ講演―古代中国と江戸の医学

「龍谷大学蔵大谷文書の医学資料」　猪飼祥夫（京都市）
「浮世絵に見る江戸の病」　稲垣進一（国際浮世絵学会常任理事）
「古代中国の厨房―皇帝の医食同源―」　鈴木輝康（山野学苑理事長補佐）

紙上発表

“Life and Light”に記された京都看病婦学校／同志社病院の活動経緯（2）　小野尚香（豊中市）
江戸時代における輸入唐薬について　羽生和子（大阪市）
『ドン・キホーテ』に描かれる医者について　小曾戸明子（八王子市）

▽支部機関誌『醫譚』86号（第108回日本医史学会総会記念号―2）
平成19年9月10日発刊

〒581–0003 八尾市本町5丁目1–7　田中医院内
日本医史学会関西支部事務局（田中祐尾）
☎072–922–2028　ファックス072–993–1237
メールアドレス sachio-tanaka@umin.ac.jp

平成19年度京都医学史研究会　活動報告

▽機関紙『啓廸』第25号発刊

「医学天正記」について（八）　高島文一
梁川星巌の死因　杉浦守邦
近江婦人慈善会蒲生支会の看病婦養成（一）　八木聖弥
日本史における眼科学について（一）
（1）土器・土偶における眼科学史的考察　奥沢康正・園田真也

▽第 216 回例会　　平成 19 年 10 月 11 日　於・京都府医師会館（京都府医師会と共催）

「小野蘭山の再評価をめぐって―没後 200 年にあたり」

本医史学会理事・洋学史学会理事・愛知大学非常勤講師　遠藤正治氏

「蘭山墓の移転に伴う新発見」　小野蘭山子孫　小野　強氏

▽第 217 回例会　　平成 19 年 11 月 4 日　於・京大会館

（日本医史学会関支部秋季大会・ビューティサイエンス学会と共催）

会員発表　「円山応挙の死因」　杉浦守邦

「医師の呼称より医史を見る」　奥沢康正

▽第 218 回例会　　平成 20 年 1 月 6 日　於・京都国際ホテル

「眞下飛泉の生涯と業績」　滋賀医科大学附属図書館情報サービス係長

日本医史学会関西支部会員　菅　修一氏

新年懇親会

▽第 219 回例会　　平成 20 年 2 月 28 日　於・京都府医師会館（京都府医師会と共催）

「生命観は揺れている」　国際日本文化研究センター教授　鈴木貞美氏

▽第 15 回医療文化史サロン展

平成 19 年 11 月 1 日～3 日　於・護王会館

▽その他　平成 20 年 3 月 16 日

府医師会を代表して京都医学史研究会七人が「盟親」の山脇東洋観臓記念碑に献花（建碑から 32 周年），ついで誓願寺墓地内山脇東洋夫妻の墓・山脇社中解剖供養碑に供花した.

〒 604–8585 京都市中京区御前通松原下ル　京都府医師会館内
京都医学史研究会（会長　中橋彌光）

平成 19 年度広島支部　活動報告

活動報告

日本医史学会広島支部・岡山医学史研究会　合同学術集会

平成 19 年 10 月 20 日（土）13 時 30 分～　　於・広島大学医学部広仁会館　中会議室

1. 日本医史学会広島支部総会
2. 日本医史学会広島支部・岡山医学史研究発表会

旧約聖書にみる皮膚疾患　広島国際大学　隅田　寛

日清戦争期広島におけるコレラ等の伝染病対策―陸軍における施策を中心として―

広島国際大学　千田武志

韓国近代医学教育史（1876～1953）―岡山・広島ゆかりの医学者 30 名

岡山県労働基準協会　石田純郎

シーボルトに学んだ岡山の医人 3 名の紹介　木村医院　木村　丹

岡山城秋季特別展「緒方洪庵と周辺の人々」　おだうじ会小田病院　小田皓二

1. 特別講演会

近代外科学の発展を支えた麻酔管理の進歩

広島大学理事（医療・施設担当）　弓削孟文

〒 734–8551 広島市南区霞 1 丁目 2–3　広島大学医学部医学資料館内
日本医史学会広島支部（碓井　亞）

平成19年度福岡地方会　活動報告

一年の過ぎることまことに早く，福岡地方会としては福岡県医師会報に毎月連載している郷土医家の業績「郷土のほこり」を執筆している．去年秋長崎に於いて日本医史学会が盛大に開催されて会員からも参加者があり，今後は毎年或いは隔年でも九州の各地方にて地方会を開催できればよいと考えている．例年3月頃には福岡地方会を開催するので，その折ご参加の先生方と相談の上準備をはかり又学会に報告したいと考えている．

〒815–0042 福岡市南区若久1–28–5　日本医史学会福岡地方会
原クリニック（原　敬二郎）
電話 092–557–2578　FAX 092–557–2635

雑　報

寄贈本リスト

【単行本】

石田　眞『ニンギョ様を祀る』「売文社」2008
中村光夫『神奈川の疱瘡神・Ⅱ』2007
中村光夫『東京の疱瘡神・Ⅱ』2007
中村光夫『東京の疱瘡神・Ⅲ』2008
中村光夫『埼玉の疱瘡神・Ⅲ』2008
中村光夫『山梨の疱瘡神』2008
中村光夫『中村教材資料文庫所蔵「痘瘡」資料文献目録』2008
坂井建雄『人体観の歴史』「岩波書店」2008
内藤記念くすり博物館『薬物名出典総索引・続編』2008
島根大学附属図書館医学分館大森文庫出版編集委員会『華岡流医術の世界』2008
乾　隆明『松江藩の時代』「山陰中央新報社」2008
ヴォルフガング・ミヒェル『中津市歴史民俗資料館分館　医家史料館叢書Ⅶ　史料と人物Ⅰ』2008
Masayoshi Sakakibara, Nobuaki Shigeoka『Die Begegnung mit der deufschen Sprache』「DOGAKUSHA」2007
京都大学医学部病理学教室百年史刊行会『京都大学医学部病理学教室百年史』2008

【別　刷】

『19 世紀プロイセン大学の学籍登録制度について』森川　潤「広島修大論集」10(1)
『『青木周蔵筆記』の詩と真実―渡独前の経歴を中心として―』森川　潤「広島修大論集」18(1)
『わが国の予防接種制度についての歴史的一考察』渡部幹夫「民族衛生」73(6)
『Q&A 医史学　戦前の精神病者収容施設』岡田靖雄「日本医事新報」(4364)
『「療養」の語誌的研究』青木純一，北野与一「東横学園女子短期大学紀要」(42)
『天保五年当時の華岡家「春林軒」における医学修業の実態について（二）―大森泰輔（不明堂三楽）の塾中日記「南遊雑誌　一・二」の翻刻―』梶谷光弘「古代文化研究」(16)

【雑　誌】

『あいみっく』28(4)，29(3)「国際医学情報センター」
『BIBLIA』(128–129)「天理図書館」
『Chinese Medical Journal』120(17–24)，121(1–7)「Chinese Medical Association」
『千葉県立中央博物館研究報告　人文科学』10(2)「千葉県立中央博物館」
『福井県医師会だより』(557–567)「福井県医師会」
『北陸医史』29(1)「北陸医史学同好会」
『いわちどり（小笠医師会誌)』(35)「小笠医師会」
『医道の日本』66(11–12)，67(1–10)「医道の日本社」
『漢方の臨床』54(10–12)，55(1–9)「東亜医学協会」
『神奈川県医学会雑誌』34(2)，35(1–2)「神奈川県医師会」
『啓迪』(26)「京都医学史研究会」
『明治薬科大学研究紀要』(37)「明治薬科大学」
『名古屋大学史紀要』(16)「名古屋医史談話会」

『名古屋大学大学文書資料室紀要』（16）「名古屋大学大学文書資料室」
『鳴滝紀要』（18）「シーボルト記念館」
『日本医師会雑誌』136（1–12），137（1–6）「日本医師会」
『日本歯科医史会会誌』27（3–4）「日本歯科医史学会」
『ねりま（練馬区医師会雑誌）』14「練馬区医師会」
『だより（練馬区医師会）』（476–486）「練馬区医師会」
『研究紀要』（2）「佐賀大学地域学歴史文化研究センター」
『労働科学』83（2–4），84（1–2）「労働科学研究所」
『労働の科学』63（12），64（1–10）「労働科学研究所」
『STETHOSCOPE』（190–193）「日本医学切手の会会報」
『東医学研究』（125–128）「東医学研究会」
『慾斎研究会だより』（114–117）「慾斎研究会」
『洋学史研究』（25）「洋学史研究会」
『漢方と鍼』32（1–4）「北里研究所東洋医学総合研究所だより」
『Medical Postgraduate』45（4），46（1–3）「医学書房」
『斯文会々報』58–59「斯文会」
『Journal of Anesthesia』22（1–3）「Japan Society of Anesthesiologists」
『Chinese Journal of Medical History』37（2–4）, 38（1–3）「Chinese Medical Association」
『日本看護歴史学會會報』（49）「日本看護歴史学会」
『JMAJ』50（4–6）, 51（1–3）「Japan Medical Association」
『北辰』（8）「北海道医史学研究会」
『醫譚』（87）「日本医史学会関西支部」